

畜産経営におけるハエの防除対策について

畜産環境対策の中で、ハエ等衛生害虫の対策は、悪臭、水質汚濁対策と並ぶ非常に重要な問題です。対策は主に、後述の①～③があります。

【①環境整備】

整理整頓、排水、こまめな除糞換気、発生源の管理（畜ふんの水分調整など）を行い、なるべく乾燥を保ちましょう。

【②物理的・機械的防除】

電撃殺虫機、防虫ネット、ハエ取りシートの設置などがこれにあたります。成虫のみの対策にはなりますが、ハエのライフサイクルを遮断する一助として重要です。また、対策の効果を提示できるという点でも必要な措置といえます。



ハエ取りシート設置例

【③化学的防除】

殺虫剤やIGR剤などを用いた対策です。殺虫剤には、有機リン系やピレスロイド系など様々な種類があり、方法も直接噴霧や残留噴霧、毒餌の塗布・設置などがあります。ハエの種類による性質や発生状況などによって適切に利用しましょう。



白壁に止まるハエの例

発生源対策となるIGR剤（昆虫発育阻害剤）の活用は、非常に重要です。ハエの発生現場での幼虫と成虫の比率は8対2です。具体的な使用方法は、幼虫の発生源に薬剤を直接散布します。通常は3～4週間に1回、発生の多い時期は10日に1回程度散布します。いずれの薬剤も、正しく使用することによって効果が得られます。もう一度、農場の対策を点検・確認して、ハエが発生しにくい環境を整備しましょう。